

★コロナ関連学校方向性ニュース

注目してください！！

●2年生への配信

西中コンテンツ➡教科学習動画コンテンツ➡中2英語 PROGRAM1

本日まで、全学年に対して今年度の学年主任・学級担任・学年所属職員・教科担任・新しく来た職員の紹介ができました。転勤された先生や急に担任を持てなくなった先生の事情もきちんと説明できました。発表が遅くなったことをお詫びします。(詳しくは、ホームページ内の学校だより5月号に載せていますので、ご覧ください。)

★西中プライド(生徒のみなさんに望むこと)

今日の2年生の学年集会で、私が「校長室からについて一度でも読んだ人はいますか？」とたずねると、大半の人が手をあげてくれました。「全部読んでくれている人はいますか？」と聞くと、これまた数人が手をあげてくれました。とてもうれしかったです。

私がこれを発信している理由は、

1つ目は、四月からいろいろなことをみなさんと話をしたかったからです。しかし、このコロナの影響でできなかつたため、どうにかしてみなさんに発信したくてホームページに掲載しました。

2つ目は、情報のお知らせ。日々変わる対応に関するの最新情報をいち早くお伝えしたかったためです。

3つ目は、西中学校としてこの先みなさんにどういう力をつけてほしいか、お伝えしたかったからです。

4つ目は、みなさんに「読む力」をつけてほしかったためです。へたくそな文章で申し訳ないのですが、これを通じて読む習慣をつけてほしいです。

5つ目は、表現することに関する見本を示したかったからです。「読むこと」「表現すること」といっても、君たちに要求するだけではだめだと感じています。

先生たちが少しでも見本になって、背中で教えたいと思っています。

6つ目は、校長ミッションなどを通じて自分の考えを持ち、少しでも発信する経験をみなさんにしてほしいと思ったからです。

7つ目は、先生たちの頑張っている様子をみなさんにお伝えしたかったからです。日々先生たちは見えないところで頑張っています。みなさんもまた、各家庭で頑張っていることでしょう。この「校長室から」がお互いの頑張りを繋ぐエールになればと思います。

8つ目は、少しでも教材等をご紹介しますためです。各ミッションもそうですが、文科省や大阪府教育庁などのホームページを紹介しました。また、数学の教材も載せました。

さて、いよいよ分散登校も始まりました。それにあわせてこの校長室からも少しお休みして、分散登校での学習指導など、じかにみなさんと話す形にシフトチェンジしていきます。

明日を最後に「校長室から」はしばらくお休みします。ただし、新しい情報や方針が出たときにはまたホームページを更新しますのでよろしくお願い致します。その際にはミマモルメでご案内します。

★アラビアンナイト(千夜一夜物語)

テリー・フォックス ラン

私がアブダビにいたころ、「テリー・フォックス ラン」というチャリティーイベントがありました。がん患者支援のためのマラソン大会で、世界各地で行われており私が赴任していた期間にアブダビでも開かれました。

マラソン大会といっても、この大会は少し変わっています。まず、走る距離がそれぞれ自由。参加者個人がどれだけ走っても大丈夫です。二つ目は、普通にランニングしてもよいし、歩いてもよい。それどころか、車いす・自転車・スケートボード・ローラースケートなど動力がついていなければ、どんな方法でも参加可能でした。

イベント会場で売られる T シャツなどのグッズ販売の利益が、がん患者支援のために使われました。

私は、当時4歳になる上の息子と二人で参加しました。手を繋いで、10kmほど走った覚えがあります。ゴールすると最年少ランナーということで、地元のメディアにかこまれて取材を受けました。

ではテリー・フォックスという人物についてご紹介しましょう。

テリー・フォックスさん(以後テリーさん)の名前はカナダ中の人に知られ、1ドル硬貨にまで肖像画が描かれています。

テリーさんは1958年7月28日にカナダで生まれました。幼少期は、サッカー・ラグビー・野球・バスケットボールなどが大好きなスポーツ少年でした。

1977年サイモンフレーザー大学でバスケットボール部に所属していたテリーさんは右ひざに痛みを感じて病院に行きました。そこで彼は医師から、骨のがんである「骨肉腫」だと宣告されました。当時の医学ではどうすることもできず、彼は右足を膝上から切断しなければならないことになりました。

右足を切断したとき、彼の年齢はまだ18歳でした。しかし、彼は病院で自分よりもずっとずっと幼い子どもたちが病氣と闘ったり命を落としている様子に気が付いたのでした。彼はその現実を黙って見過ごすことができませんでした。

1980年4月、テリーは一人でも多くのがん患者を救おうと、「MARATHON OF HOPE」(希望のマラソン)と名付けた「がん研究資金集め」の「カナダ横断マラソン」を決行しました。カナダのニューファンドランド州のセントジョーンズからバンクーバー島のポートレンブリューまでの8000kmを走破しようというものでした。

今から40年前の義足は、まだまだ義足の足と接する面が固く、想像しただけでも痛そうですが、彼はこの義足で1日42kmを走ったのでした。炎天下や雨の日でも、毎日フルマラソンの距離を走ったのです。

挑戦の途中で、テリーは自分と同じ骨肉腫で左足を失ったグレッグ君(10歳)と出会いました。テリーさんは、グレッグ君と水泳をして過ごした日の事を、「人生で一番感動的だった金曜日」と語っていました。

その後も挑戦を続けたテリーさんでしたが、1980年9月1日に痛みを訴え病院へ行きます。診断の結果、がんが肺に転移しているのがわかりました。

スタートしてから143日目、5373km地点でテリーは夢半ばで断念せざるを得ませんでした。

Even if I don't finish, we need others to continue. It's got to keep going without me.

(もし僕がゴールできなくても他の人が続けなくては。僕なしで進まなきゃいけないのだ)

この言葉通りテリーを応援する人々の輪がさらに大きくなり、テリーの歩みが止まろうとも人々の様々な行動は広がり続けました。当初、テリーはカナダ全国民(当時約2400万人)から、一人1カナダドルの寄付がもらえたらうれしいと考えていました。しかし、その目標金額は、1981年1月には達成し、その後も増え続け、今は10億カナダドルを超える金額が集められています。

カナダ国民の最も悲しい日

1981年6月28日、1ヶ月後の23歳の誕生日を目前にテリーは旅立ちました。テリーが「感動的な時」を共に過ごしたグレッグ君も、まるでテリーを追いかけるように6週間後の8月11日に眠りについたそうです。

歌手のロッド・スチュアートはテリーに「**Never Give Up on a Dream**」という歌を捧げました。

Terry Fox Run(テリー・フォックス ラン)

22年という短い一生を駆け抜けたカナダの英雄との悲しい別れの翌年から、彼の

意思を継ぎ、ガン研究の為に資金を集めるチャリティーマラソン「**Terry**

Fox Run」が世界中で行われています。今も世界のどこかで彼の意志を引き継いだランナーが走り続けているのです。

